

(仮称) 国際青少年センター・(仮称) 芸術創造ファクトリー
基本構想 (素案)

平成 27 年〇月

新潟市教育委員会・新潟市

1 はじめに～構想策定にあたり～

本市はこれまで以上に政令市にいがたの拠点性や個性を高め、更なる成長を目指すため、新潟市総合計画（にいがた未来ビジョン）に基づき行政運営を進めています。

同計画の行政運営方針において、持続可能な財政運営を図るため、市有財産の効率的な管理・利活用の手法としてファシリティマネジメントの考え方に基づいた財産経営を推進しています。大規模跡地の利活用推進もその一つとして、社会情勢やそれに伴う需要の変化、さらに個々の跡地の立地特性や課題等を踏まえ、総合的な視点による利活用の検討がなされています。

これにより、中央区下町地区の市立舟栄中学校と市立二葉中学校の統合（平成 26 年 4 月）で、不使用となった旧二葉中学校校舎の利活用について次の方針が示されました。

- 「新潟市大畑少年センター」は築 50 年以上経過し老朽化が激しく、建て替えもしくは移転の必要性が生じていたため、移転先として同校舎を利活用するものであり、合わせて「国際」及び「青年」を含む施設利用対象者拡大と機能の拡充を図ります。

⇒ （仮称）国際青少年センター

- 市内には文化・芸術による創造的活動を担う人材は数多く存在します。文化創造都市を目指す本市において、次代を担う若い世代を支援し、地元から育てていくためには、その環境づくりが必要となります。そのため、同校舎を利活用し、文化・芸術の創作活動の場を設けます。

⇒ （仮称）芸術創造ファクトリー

- また、上記 2 施設は峻別されるものではなく、双方が有機的に連携することにより、相乗効果を発揮でき、新潟市ならではの施設となるものと考えます。

本基本構想は、学識経験者や青少年健全育成、国際交流、民間事業者等計 10 名の委員で構成する「旧二葉中学校校舎利活用基本構想・基本計画策定検討委員会」において、本市の方向性や社会事情を鑑み、校舎の利活用について方針を定めたものです。

2 背 景

(1) 次世代を担う心豊かな子ども育成

急激な勢いで進む我が国の少子高齢化や近年の経済不況の影響など、多くの様々な社会問題が、青少年の非行、不登校、ひきこり、犯罪などの社会問題を深刻化させるとともに、近年の若者の社会的自立の遅れを生じさせる大きな要因であるとされています。

これらの諸課題のうち、特に強く指摘されているのが、直接的な体験の不足と対人関係の希薄さです。中央教育審議会や生涯学習審議会などでは、これらの課題を解決するために必要なこととして「生きる力」を育むことや、生活体験、社会体験、自然体験の機会を増やすことの必要性を繰り返し述べています。

青少年期は、人格の基礎が形成され、大人となるための準備期間として、きわめて重要な期間であり、次代の担い手として未来への希望を託す貴重な存在である青少年の健全な育成のためには、社会総がかりで取り組みを進めることが必要です。(引用 国立青少年教育振興機構 H22. 3)

本市においても、市内の小中学校の全児童・生徒を対象とした「新潟市生活・学習意識調査」のなかで、「体を動かして遊んだり、運動・スポーツをしたりしています。」という問いに、小学生5・6年生と中学生の約2割があまりあてはまらない、あてはまないと答えています。また、「電子ゲームを1日にどれくらいしていますか」という問いに、約5割以上が1日に1時間以上しているとう結果で、増加傾向が見られます。本市においても、普段の生活で人と一緒に活動する機会が減少し、電子ゲーム等人と関わらない時間が増えている傾向が見られます。

調査内容 (小学5・6年生 中学生平均)	体を動かして遊んだり、運動・スポーツをしたりしている (あまりあてはまらない ・あてはまらない)	電子ゲームを1日にどれくらいしていますか (1時間以上)
H25	19.6%	57.9%
H23	19.7%	35.6%

【新潟市生活・学習意識調査結果】

これらの課題を踏まえ、次代の新潟市を支え、世界にはばたく心豊かな子どもを育み、市民が学び育つ社会づくりのための、平成27年3月に「新潟市教育ビジョン～第3期実施計画」を策定しました。「学力・体力に自信をもち、世界と共に生きる心豊かな子ども」「生涯を通じて学び育つ、創造力と人間力あふれる新潟市民」を目指す子どもの姿・市民の姿と定め、主な施策に「豊かな心と健やかな身体の育成」「創造性に富み、世界と共に生きる力の育成」を挙げています。

(2) 文化芸術が有する創造性を活かしたまちづくり

文化芸術は、広く社会への波及を有しており、これまでも教育、まちづくり、観光、産業などの幅広い分野に影響をもたらしてきました。

こうしたことを踏まえ、産業起こし・まちづくり・地域活性化など政策的に活用する取り組みが国内外で始まっています。イベント・展覧会の開催などによる観光客の増加や関連消費の拡大をはじめ、新しい文化産業の発展と、企業の進出に伴う雇用の創出など、都市の持続的発展の面での効果が期待されています。

また、未来を担う子どもたちにとって、自分の住むまちの文化や歴史を知り、理解を深めること、また、異なる文化や習慣をもった人たちと共に生きるため視野を広げ、コミュニケーション能力を身に付けることはとても大切です。

子どもたちが地域文化のとの関わりを通じて、地域社会に対する関心を高め、健やかに成長することができるよう、様々な体験の機会を充実させ、地域や世代を超えた人たちとのふれあいを実感できるようにすることが求められています。それは地域への理解を深めるだけでなく、豊かな人間関係の形成や、生きる力の発揮、自立への促進へとつながっていきます。

国は平成27年5月22日に「文化芸術の振興に関する基本的な方針(第4次基本方針)」を閣議決定し、①文化芸術活動に対する効果的な支援、②文化芸術を創造し、支える人材の充実及び子どもや若者を対象とした文化芸術振興策の充実、③文化芸術の次世代へ

の確実な継承、地域振興等への活用、④国内外の文化的多様性や相互理解の促進、⑤文化芸術振興のための体制の整備と、5項目を重点戦略に掲げています。

本市においても、市を取り巻く現状と課題を踏まえ、文化芸術をさらに振興するだけでなく、文化芸術が有する創造性を産業・観光・教育・福祉など様々な分野に活かし、魅力あふれるまちづくりや都市の活性化につなげる「文化創造都市」を目指すべく、平成24年3月に「新潟市文化創造都市ビジョン」を策定しました。「文化芸術が有する創造性を活かしてまちづくりを進め、市民がいきいきと暮らし、将来にわたってまちが活性化する新潟市をめざします。」を理念と定め、①文化芸術の振興、②新潟文化の個性と多様性の伸長～「新潟らしさ」を深め、広げる～、③文化を活かした創造都市の実現～文化を活力に～と3つの基本方針を示しています。

（3）行政計画との関連

本市の将来像をまちづくりの主役である市民と共有し、未来に向けた都市づくりを協働で進めるため、平成27年3月に新潟市総合計画（にいがた未来ビジョン）を策定しました。

ビジョンは、「地域・田園・自然の力を活かし、健康で安心して暮らせるまちづくり」「日本海開港都市の拠点性を活かし、創造的に発展を続けるまちづくり」の2つを理念とし、「市民と地域が学び高め合う、安心協働都市」「田園と都市が織りなす、環境健康都市」「日本海拠点の活力を世界とつなぐ、創造交流都市」の3つを8年後の都市像としました。

図は施設整備について、「にいがた未来ビジョン」を基本に、「新潟市教育ビジョン」「新潟市文化創造都市ビジョン」の方針を加え体系化しました。

にいがた未来ビジョン

都市像

○市民と地域が学び高め合う、
安心協働都市

○田園と都市が織りなす、
環境健康都市

○日本海の活力と世界を
つなぐ、創造交流都市

政策

○学・社・民の融合による教育
を推進するまち

○地域資源を活かすまち

○魅力を活かした交流拠点
○世界とつながる拠点

施策

○自分の力に自信をもち心豊
かな子どもを育む学校教育
の推進
○自立し開かれた学びの支援

○まちの活力を活かす「水
と土」
○地域の個性、歴史、文化
に根差したまちづくり

○独自の魅力を活かした交
流促進
○優れた拠点性を活かした
広域的な交流人口の拡大
○多文化共生の推進

新潟市教育ビジョン

【基本構想】

学力・体力に自信をもち、世界と共
に生きる心豊かな子ども

【基本計画】

(実施計画・基本施策)

- ・豊かな心と健やかな身体の育成
- ・創造性に富み、世界と共に生きる
力の育成
- ・地域と学校・社会教育施設が協働
する教育の推進

新潟市文化創造都市ビジョン

【基本方針】

文化を活かした創造都市の実現
～アーティスト・クリエイター
などの文化芸術活動の支援・交
流～

【基本施策】

創造的活動を行う人材が集まる
環境整備と活動機会の拡大・充
実

(仮称) 国際青少年センター

(仮称) 芸術創造ファクトリー

3 基本理念

「新潟市教育ビジョン」では、本市が目指す「心豊かな子ども」を育むためには、集団での活動の中で、目標をもって様々な体験活動などにチャレンジする場が必要です。

体験活動は人づくりに欠かせないものであるとの認識の下、未来を担うすべての子どもたちが人間的な成長に不可欠な体験を経験するには、その機会を意図的・計画的に創出することが求められています。グローバル社会に対応しつつ、社会を生き抜く力として必要となるコミュニケーション能力や自立心、主体性、協調性、チャレンジ精神、責任感、想像力、変化に対応する力、異なる他者と協働できる力等をあらゆる機会を通して伸ばしていくことも求められています。次代の担い手として未来への希望を託す貴重な存在である子どもたちを育むために、社会教育施設が果たす責務は大きいと考えます。そこで、家庭や学校とは異なる場所で、多様な体験活動を経験することにより、次代を担う「心豊かな子ども」を育てることを目的とした施設とします。

また、「新潟市文化創造都市ビジョン」では、文化芸術は、「心豊かな生活」を実現するうえで不可欠なものであり、その時代に応じて新しいものを取り入れ、さらに磨き上げ、過去から未来へと受け継ぐことが重要であり、文化芸術のもつ創造性を産業・観光・教育・福祉など様々な分野に活用し、魅力あふれるまちづくりや都市の活性化につなげると示しています。

以上のとおり、本施設では以下の理念に基づき、事業展開を図っていきます。

青少年健全育成と文化創造の拠点を整備し、様々なプログラムの展開により「心豊かな子どもの育成」「心豊かな生活」の実現を目指します。

4 施設の役割

- (1) 国際青少年センター、芸術創造ファクトリー双方の事業連携、人的交流を積極的に図り、ハード・ソフト面における連携が有効的に行われ、「心豊かな子どもの育成」「心豊かな生活」の実現がより効果的となる施設とします。
- (2) 家庭や学校とは異なる場所で、様々な活動を体験することにより、次代を担う「心豊かな子ども」を育てることを目的とした施設とします。
- (3) 国内外を問わず文化芸術の担い手が相集い、本市の文化芸術の底上げを図るとともに、文化芸術が有する創造性を活かしたまちづくりの一翼を担う施設とします。

5 施設機能

(1) 宿泊・研修機能（複合機能含む）

青少年の利用団体が集団宿泊体験や交流を通して、自立・協働・ボランティア等を学べる、宿泊・研修の場

(2) 体験活動支援機能（複合機能含む）

現在の大畑少年センターが持っている体験活動支援センターの機能をそのまま引き継ぎ、海や松林等の地の利を活かしたプログラムや芸術創造など、特色ある様々な学習プログラムが体験できる場

(3) 国際交流機能（複合機能）

諸外国の人々と新潟の青少年との交流の場

(4) 創作活動機能（複合機能含む）

国内外を問わず、アーティスト・クリエイターの創作活動（レジデンシャル等）・情報発信の場、異なるジャンルの創作活動による新たな文化芸術の創造の場

(5) 新潟文化体験機能

新潟市ならではの文化・芸術を体感できる場

(6) 交流機能（複合機能）

施設利用者や市民の相互交流の場

6 施設内容

新潟市公共建築物ユニバーサルデザインガイドラインに即した施設、設備、素材などを使用し、基本機能や活動内容に合わせてスペース分けを行い、ハード・ソフト面における連携が有効的に行われるような施設とします。

【1階部分】

○工房・ギャラリースペース（創作活動機能）

- 24時間使用可能。隣接住民への騒音に配慮し防音処理を施す。
- レジデンシャル（滞在型創作活動）を可能とするが、宿泊設備は設けず、休憩室と簡易な水回りのみの整備とする。
- 創作物により使用スペースが異なるため、間仕切り等により使用スペースの変更を可能とする。
- 創作後は鑑賞できるギャラリースペースとしても利用可能とする。

○食堂・カフェ・厨房・（宿泊・研修機能）

- 宿泊者に食事を提供する。
- 企画展示、商品販売も行うスペースとして活用。
- ※カフェについては、ニーズや商圈を考慮し、規模等を含め要検討

○浴室・脱衣室（宿泊・研修機能）

- 体育館1階スペースに男女別に脱衣室と浴室を整備する。
- 宿泊客専用とする。

○管理事務所

- 宿泊・研修施設と芸術創作活動の一括管理を行う。

【2階部分】

○水と土の芸術祭アーカイブスペース兼ギャラリースペース（新潟文化体験機能）

- 過去3回の「水と土の芸術祭」作品を紹介・展示するスペースとして整備
- コミュニティスペースとは一体として整備

○コミュニティスペース（国際交流機能・交流機能）

- アーティスト、市民、宿泊者、観光客等、国内外を問わず、この施設を訪れる全ての人々の交流の場として、芸術作品を展示するギャラリーと一体の憩いの場とする。

○工作室（体験活動支援機能・創作活動機能）

- 主に木工や金工等、道具を使用した制作や工作体験教育プログラム等も行える場として整備

○クリエイティブスタジオ（体験活動支援機能・創作活動機能）

- 写真、映像、ライブ、アートセミナーやイベント、フィルム上映会等、多目的な利用が可能なスタジオを整備
- 隣接住民への騒音に配慮し防音処理を施す。

○ワークショップスペース（国際交流機能・創作活動機能）

- 国内外のクリエイターを招聘し、芸術系や自然体験等、多様な教育プログラムを提供し、活動できる場として整備

○和室（国際交流機能・交流機能）

- 新潟市の文化・芸能を中心に海外の人々と理解・交流する場として整備
- 茶道に対応するため、水屋の設備を設置

○体育館（体験活動支援機能・創作活動機能）

- 宿泊団体を中心にキャンドルサービスなど体験活動の場として整備
- 集会や各種研修等、多目的な利用を行うことができる。
- 放課後や休日の子どもの居場所として利用

【3階部分】

○宿泊室（宿泊・研修機能）

- 1 部屋 8 人利用とし、8 室整備
- ベットは 2 段ベットとする。
- 全ての居室から日本海の夕日を眺望できる。
- 男女で階を分ける。
- 部屋毎に洗面化粧台を設置する。
- 指導員室は救護室を兼ねた和室とし、各階 2 室整備する。

○多目的スペース（宿泊・研修機能）

- 3 階の宿泊者全員が一堂に会し、集会や各種研修等、多目的な利用を行うことができる。
- 屋外炊飯ができない場合等、調理室で調理した料理を食する場としても利用が可能
- 教室 2 室分の広さのスペースで廊下も開放した整備を行う。

○調理室（体験活動支援機能）

- 主に宿泊者向けの食事を自ら調理する場として整備するが、天候不順や冬季等、屋外炊飯が難しい場合にも利用する。
- 料理教室等の教育プログラムにも使用する。
- 学校の家庭科室同等を整備

○談話室（宿泊・研修機能）

- 主に宿泊者のコミュニケーションの場として和室を整備する。
- 教室規模の研修室としても利用可能
- 宿泊室としても利用可能

【4階部分】

○宿泊室（宿泊・研修機能）

- 1 部屋 8 人利用とし、8 室整備
- ベットは 2 段ベットとする。
- 全ての居室から日本海の夕日を眺望できる。
- 男女で階を分ける。
- 部屋毎に洗面化粧台を設置する。
- 指導員室は救護室を兼ねた和室とし、各階 2 室整備する。

○多目的スペース（宿泊・研修機能）

- 4階の宿泊者全員が一堂に会し、集会や各種研修等、多目的な利用を行うことができる。
- 屋外炊飯ができない場合等、調理室で調理した料理を食する場としても利用が可能
- 教室2室分の広さのスペースで廊下も開放した整備を行う。

○音楽室（体験活動支援機能）

- 吹奏楽、合唱、演劇等の練習と発表の場として、また音の出る教育プログラムを行うことができる教室として整備を行う。
- 隣接住民への騒音に配慮し防音処理を施す。

○談話室（宿泊・研修機能）

- 主に宿泊者のコミュニケーションの場として和室を整備する。
- 教室規模の研修室としても利用可能
- 宿泊室としても利用可能

【屋外（その他）部分】

○野外炊事場（体験活動支援機能）

- 屋外で調理から食事まで可能な設備として、屋根付きの釜場、炊事場、テーブル等を設置
- 災害等の際にも利用可能

○避難所（物資保管倉庫を含む）

体育館管理室は物資保管倉庫に予定。
※避難所指定は、施設の内容により市担当部署で検討して指定する。

7 運営手法

（1）整備手法

文化芸術及び教育に精通したディレクターを選任し、施設整備についての助言を求めらる。

(2) 運営手法

- ・ 両施設は一体管理とし、弾力的な運営と効率的な管理を図るため、指定管理を含め検討する。
- ・ 指定管理者は施設運営を総括する館長を配置し、ディレクターとともに管理・運営に努める。

8 整備スケジュール

- ・ 平成 27 年度 基本構想・基本計画策定
基本構想パブリックコメント実施 (H27.12 中旬～H28.1 中旬)
- ・ 平成 28 年度 基本・実施設計
- ・ 平成 29 年度 改修工事
- ・ 平成 30 年度 (4 月予定) 施設供用開始 (大畑少年センターは新施設オープンまで開館予定)